

暮らしの保健室への出前講座 “杏×まち企画”による街づくり活動 ～Zoomで“もしバナゲーム”を開催して～

保健学部看護学科 柴崎美紀、日野徳子、岸知輝、中島恵美子

目的:武蔵野市内の「暮らしの保健室」で、これまで学科内の自主活動として、学生による健康教育を行ってきた。

今年度の新型コロナウイルス感染症が拡大している状況をうけ、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、現地での開催が困難であると判断し、オンライン企画に変更した。利用する「もしバナゲーム」とは、「もしものための話し合い(=もしバナ)」をする、きっかけを作るために開発されたゲームである。自分の死がまだ先のことと考えていたり、いつも他人のことを中心に考えていて自分にあまり目を向けていない対象者に対して、もしバナゲームを実施し、「人生の最期にどうありたいか」を考える機会とする。また、ゲームを通して自分と向き合うことで「自分が何を大事にしているのか」といった価値観について気付くきっかけとする。学生が、年代、職種が異なる人の話を聞くことで、自分と他の人との関わりで活かしたり、自分にとって大切な人に伝えるきっかけにもすることを目的とした。



日時:令和2年8月26日(水)18:30～20:30
参加者:地域住民3名・地域医療介護福祉専門職3名、学生5名、教員3名
内容:グループに分かれてアイスブレイクと自己紹介の後、もしバナゲームを行い、意見交換を行った。

結果:参加者のアンケートによると満足度の平均は4.7点(5点満点)と良い評価であった。ゲームを通して楽しみながら人生の在り方や価値観について考えることができたという感想もあり、人生の最期について考える良いきっかけづくりとなったと考える。

